議事録

＜県産木材の安定供給に関する意見交換会（第３回：全体）＞

日　時：令和３年１２月１７日（金）13:30～15:40

場　所：林業技術総合センター研修棟

３．議　　事

(1)木材需給の動向について

（資料１を林業振興課長より説明）

(2)前回の会議報告

（資料２を事務局より説明）

(3)各分野の状況について

１）山林分野

・夏場までは例年より材が出ていなかった。9 月以降出材が続いて，10 月の記念市には結構な量が集まっていた。価格もまあまあ良かった。引き合いも多かった。

・丸太生産に意欲を持って取り組めると思う。

・今まで山に関心の無かった方から「材木が高くなった今が伐り時か？」と聞かれることが多い。

・早めに伐ることを考えては？と答えると，前向きに検討する方が増えた。

・特に分収林の方々は 50 年以上を経過しているので，伐採の意向が強い。

・まさにウッドショックをウッドチャンスにする, 出材を増やせるタイミングになってきたと思う。

・値段も少しずつ上がってきている。全国的な比較をすると 18,000 円/m3 まで上がっている県が多い中で，宮城県は 4m，20～38cm で 14,000 円/m3 程度。全国や東北（秋田）と比較しても宮城県はまだまだ低い。

・是非いろんなところで宮城県産材を使って欲しい。

２）加工（製材）

・国産材に関しては，全国的に丸太の値段が上昇している。

・県内の製材に関しては，柱材などの構造材の欠品が出ている。間柱などの羽柄材は安定的に供給できている。柱材の供給が追いついていない。

・前回の 8 月の会議で，秋口に柱材の欠品が懸念されると予想されたが，そのとおりになってしまった。

・我々もできる限り国産材の供給に尽力しているが，生産体制はどこの製材工場やプレカット工場もフル稼働であり，余力が無い。

・その中でも可能な限り外材から国産材への切り替えを進めているが，外材の供給量に追いつかないのが現状である。

・スギの柱材の値段も上がっているが，輸入材も値段が上がったまま不安定な状態が今後も続くと推測する。

・相場だけで推測すると来年の秋口まで，国産材も外材も不安定な状態が続くと思う。
・プレカット工場の稼働状況などについては，今年度に関しては，いつも需要が落ち込む 1 月から 3 月においても，好調に推移するとのこと。稼働状況は高止まりになる。
・その中で，需要に対してしっかり供給できるよう，情報を集めていかなければならない。
・各製材工場やプレカット工場などの横の連携を強化して，加工や生産を進めて行かないと，供給不足の問題が今後益々増えてしまう。余談を許さない状況。供給の不安定さは残る。

3）加工（合板）

・合板の製造に関しては，全国ベースで春先から月当たり、27 万 m3, 10 月で 28 万 m3，で推移しているが，出荷の方がそれ以上上回るペースで進んでおり，この状況は年度末まで続くと思われる。
・現在の在庫状況は，13 万 m3 で，製品がほとんど無いような状況である。
・それに伴い原木についても，前回の会議でも丸太の在庫が減ってきていると報告したが，それをもっと圧迫する様な状況が，今もなお続いている。丸太の入荷量が減少している。
・一方，九州では，主に中国への丸太の輸出が止まっているなかで，天候も良く伐採が進んでいるので，土場には丸太があふれているとのこと。入荷制限をしている工場もあるとのこと。
・東北でもそのような状況になれば，安心して生産を行えると思うが，先行きが見えない中でどうなるか分からない。
・その中で 2024 年 1 月には秋田で新設の大型製材工場が稼働予定であり，スギ材も大量に使うとなれば，既存の工場では，丸太の供給不足が危惧される。
・丸太の生産量が増えない中で，利用する工場が増えれば，資源の奪い合いになってしまう。

4）流通（輸入材）

・2 年前まで当社で扱い量が一番多かったのは米マツだったが，1 年半前から入荷量はほぼゼロである。それぐらい変わっている。
・国内では米マツの代わりにスギなどの集成材を使っていると思うが，スギの生産量には限界があるので，集成材の生産量が増えればそれ以外のところにしわ寄せが来ていると思う。
・今は輸入材より国産材の取り扱いが多い。
・住宅における国産材の供給量は今までは 40%程度。外材は 60%。それが近年では外材の取扱量が数分の 1 まで減少している。今の輸入材は，商社から直接生産工場へ入っているので，我々が見ることができなくなった。自分たちが今まで扱っていた輸入材が，集成材になって出回っている。
・コンテナ 1 つで 30～40m3。今までのとおり仙台港に輸入材が大量に上がって，どこの分野にどのように行くのか，目で見られたが，今はほとんどわからなくなった。
・土台のベイツガは直接商社から防腐加工工場に流れる。集成材工場も同じ。
・あえて言えば北米は，SPF，２×４用材，北欧はホワイトウッドとその集成材が主な取り扱いで米マツはコンテナ 1 つが入ったかどうかという状況。
・今回，二酸化炭素の問題で，各国が木材を使うようになった。アメリカから大量に入っていた米マツがほとんど日本に入らなくなった。ヨーロッパからアメリカに材が動いている。第 3 クオーターでは，北欧材も日本は来ない。

・そのような状況でも住宅資材の 6 割は輸入材である。商社から直接工場に流れていると思うが，今の取り扱いは羽柄材。6 から 7 割は国産材に変わっている。

5）建築（２×４）

・ランバー材は順調に納入されている。価格については，9 月 10 月がピーク。12 月については，12～14 万円/m3 となっている。来年の第 1 クオーターについては，10 万円前後，第 2 クオーターについては，10 万円を切る見込み。
・しかし，カナダのバンクーバー港のコンテナの滞留問題，50 隻前後が常に滞留している。それ以外にも 11 月のカナダ南部の集中豪雨による被害が甚大。製造は行っているもの輸送の問題で今後の納入に影響が心配される。
・先日のケンタッキー州のハリケーン等の影響も出てくるのではないか。
・一方、エンジニアリングウッドの納入が深刻。床材については，通常の納期から 2～3 週間の遅れが発生している。140E 以上の梁材については，3 ヶ月以上の納期がかかっていて，集成材への変更が余儀なくされている。
・2022 年の 1 月からロシアが木材を海外に輸出をしないとの報道がある。今後中国への木材供給との兼ね合いにより影響が出てくる懸念がある。
・国産材については，需要増のため，新規取引が行われる状況ではない。採用見送りの状況である。

6）建築（在来）

・好調な住宅需要に支えられ，昨年の住宅着工戸数は一時落ちたが，今年はウッドショックで 3 月頃はいったん落ち込んだが，その後順調に増えて，宮城県の場合，400 から 450 戸/月（持ち家）の間で順調に着工工数は推移している。
・そのような中で軸組工法は，根強いお客様に対して供給する住宅と価格的に安いモノと大きく分けて 2 つの分野に分かれている。
・私どもは国産材を使って住宅を建てさせてもらっているが，住宅における木材の価格が 3 月以降ものすごく上がったかというとそうではない。平均して，1 割ぐらいは上がっているとのこと。2 割以上上がったという人はいない。
・この辺が従来から安定して製材の供給やプレカットなど，日頃のお付き合いの中でやらせていただいていることを強く感じている。
・大量生産ではなく，年間 5～10 棟を建築する規模の工務店の会員が多いので，木材価格の上昇分は，どうしても難しい場合はお客様に説明して御協力いただいているとのこと。
・お客様もウッドショックで資材の値段が上がっていることを聞いて，建築を止めた方もいれば，今のうちに建てておくというお考えの方もいる。

(4)県産材需要拡大に向けた意見交換

1)建築関係者

・先月，建築士会の全国大会が東京あり，その際，国土交通省から 7～8 割の木造化を行いたいとのこと。それに関し，国交省と建築士会で協定を締結した。技術者養成を応援する。

2）建築関係者

・２×４協会でも縦軸を国産材でやった事例があり，データも良かったので，これは直ぐできると考えている。

・一方，材の断面積の大きいモノとか，強度の問題もある横架材とかは，難しいと考えている。

・宮城県内に２×４材を製材する工場が無いが，県内で安定的に取引できる状況があれば，そちらの方に切り替えることは可能である。皆さんと一緒に進められればと思っている。

3）加工関係者

・県産材住宅補助事業，サステナブル補助について，今年度については 11 月 25 日で予算を満了し，募集を締め切ったとのことだが，その報告を受け，取引のある工務店やお施主様からは何とかして欲しいとのご意見が多かった。

・今年はウッドショックの影響でお施主様へのコストアップの影響が出ている。県独自のこの補助はお施主様にとっては大変貴重な補助事業，50 万円である。

・みやぎ環境税を財源としているこの補助事業の目的を我々も再度意識し，山への再造林等が進むよう，年度内の追加募集について，ご検討いただきたい。

→林業振興課長

・今年度分は 11 月 25 日に応募が 480 件になり，予算の上限に達したので，募集を締め切らざるを得なかった。

・今年度の予算編成時には，これほどのコロナの需要反動は想定できなかった。なので，昨年と同規模の予算編成を行った。

・今年度からサステナブル住宅補助に変更し，子ども子育て支援、県外から定住促進なども踏まえ，事業のリニューアルを行った。

・今のご意見は貴重なご意見と受け止めている。現在，どのような形で事業の継続ができるか，できないかを検討している。方法や財源も含めて検討している。

4）流通関係者

・今までに無かった非住宅の大型物件が随分発注されるようになってきた。

・ただ，その予算は昨年度に行い，今年度発注されているが，ウッドショックにより市場価格との乖離がでている。

・一般住宅は施主様，工務店等と話し合いをしているが，公共物件は価格のスライドが木材に対してほとんど決まりがない。今まで前例がない。大型木造建築の事例がないからそういう仕組みがない。低い価格のままだと，製材所からも材がでない。結果的にはやりたくない物件になってしまう。

・価格が変動した際にどのようにスライドしていくか，という仕組みが今後木材を安定して使っていくためには必要になってくる。

・製材所も工務店もゼネコンも含め，木材を安定的に使っていく仕組みを考えていただきたい。実際にそのような問題が起きている案件も出てきているので。

5）流通関係者

・国産材，とりわけ県産材の供給力はどれくらいあるのか。需要を多方面に開拓しても県産材を供給できるのか。今まで使ってた人は使えなくなるのか。

→加工関係者

・県内の供給量，どれくらい供給できるかは，難しい問題。一概にどれくらい出材しているかなどは把握できていないが，海外の状況を見ると，自国の木材を自国で使って行く流れになってくる。
・日本でも国内で製材したものを国内で使う流れを必ず作っていく必要がある。全国でも，自治体単位でも良いので，サプライチェーンの構築が注目されていくこととなる。前回 8 月の会議でも発言したが，川上から川下までの情報共有が非常に重要になる。
・材料は川上，川中，川下という流れになる。その中で情報の共有が必要で，特に「川上、川中」と「川中、川下」の情報供給が重要。
・川上の林業が，出材に関し，どういった植林状況で，出材がどの場所でどれくらいか，どのような樹種がメインで，といった年間計画の情報提供から始まって，川中に関しては 1 次加工おいては，構造材や内装材の製材，合板製造，チップ製造など，おのおのの生産量と在庫量などを共有した上で，県内で県産材や国産材を宮城県内でしっかり回していくといったサイクル，サプライチェーン化することによって，安定的に平均的に製品を作り続けることができる。
・世界の相場や単価，日本の平均だけではなく，宮城県としてしっかり森林に還元できるような仕組みを作るためにも，宮城県内でモノを回す仕組みをしない限りは，県内で年間どれくらいの出材量があるのか，供給できるのかっといった質問には答えられない。
・生産側も供給側も消費側も情報をしっかり吸い上げた上で，必要量が出てくる上で，なかなかその辺の情報共有ができていない。一概にどれくらい必要で，どれくらい出せるかは，分かっていないと思う。
・非住宅の木造化も進めば，なおさら木材の供給が必要になってくる。そういった情報が無ければ，宮城県でどこが不足しているのか，木材の加工か，乾燥機が不足しているのか，伐採チームが不足しているのか，そういった弱みを知らないと，そういった対応になっていかない。
・弱みを知る上でも，サプライチェーンの仕組みを地域とか県とかの単位で作っていかないと，どんどん全国の都道府県に宮城県は負けていく。
・全国にはそういった成功事例があるので，業界の団体の中で，来年度からはサプライチェーンの構築を強く全国に発信する立場にもなってくるので，こういった仕組みづくりを宮城県として構築するのが，至上命題であり，早急な対応が必要と認識している。

→座長

・県の言い訳ではないが，合板用材に関しては，工場と供給側で毎年需給調整会議を行っており，今回のウッドショックにおいても比較的，安定的に材が集まっている。
・そういったノウハウを非住宅分野の製材関係につなげていくことが重要と考えている。
・これからの林業は今までのような市場原理でやるだけではなく，しっかり川上，川中，川下の情報供給が ICT を使ってやっていくことが必要だと思っている。
・これらは，県に対する大きな宿題と捉えている。

6）建築関係者

・非木造分野に関して，この林業技術総合センターの設計に携わらせていただいて，そのときの懸案事項を報告するので，参考としていただければ，幸いである。

・この建物はCLT工法で，構造設計において，事務所棟はルート３，研修棟はルート２で計算していて，保有水平耐力を計算して構造設計している。その計算法はRC造でかなりの規模の建物でしかやっていない計算。それを木造でやることによって，大規模でかつ有効にCLTを使えることができた。

・如何せん，審査機関において，建物の確認申請，計画通知とかあるが，前例がない物件に対してかなり煩雑なことになってしまう。例えば構造体のCLTに四角い穴を開けた場合などは，それも前例がないので実験によってどれだけマイナスになるか，通常の100％に対して，何％減った計算で良いのか，計算だけでなく実験を行って，その実験結果から低減値を算出しなければならない。

・非住宅分野での木造推進は，我々建築士としての課題であり，積極的に木材を使っていきたいが，その辺がもう少し全国的な事例なども参考に審査等を簡略化していただければと思う。あわせて構造のチェックも同様に，対応していただければ，我々設計者として，より木造化に突っ込んでいける，踏み込むことができる。

・そのことでお客さんにも木造をより積極的に進めることができると思う。

・このことが，この施設に関わって苦労した点なので，改善していければ良いと思っている。

7）山林関係者

・私どもの組合を構成する事業体が県内の伐採量の約７割近くを担っている。

・先日の臨時総会で東北森林管理局から，補正予算関係で，業務追加の情報提供があった。

・しかし我々は，国有林以外でも県内の民有林でも仕事がある。県内で出材作業ができる作業員の数は決まっている。

・昨年のコロナが始まったときは，流通が止まり，材料が売れないので，国有林はツル切りなどの森林整備に発注を切り替えてくれた。そういうところを是非今の状況を踏まえ，林野庁や県でどういう風な出材をしていくか調整していただくと，我々は気持ちを楽に受注していける。

・これらのことは，先ほど㈱山大が話していた，情報の共有につながっていくので是非ご検討願いたい。

・建築資材において，今は輸入材が手に入らないから国産材を求めている流れが見えるが，国産材じゃなければダメなユーザーさんがどれくらいいるのか不明。今後実際どれくらいのことをしていったら良いのか，以前，市場で２×４材の国産材化を提案したが，当時は誰も取り合ってもらえなかった。

・海外から木材が入らなくなると，始めていろんなことができる。米マツの平角も高価になり，その代替として国産アカマツの平角を出していけるようにしていきたい。岩手県では，今の価格でようやくアカマツの平角を出せるようになった。

・今の価格の状況が一過性なのか，今後も続くのかが，分からないと今後，全体的にどのように進めて行くか，山を始め，我々製品市場までいろいろ悩んでいる。

・話は戻るが，山の出材等について，県も入ってもらって国と調整していただきたい。

→座長

・先日，県は東北森林管理局と協定を締結し，非常に良い関係であるので引き続きいろいろ調整していきたい。

・一方，先ほどの県からの報告で丸太の価格が上昇し，森林所有者に少しは還元されていると報告があったが，実際のところ，この価格がいくら位なら森林所有者が再造林を行うのか，その分岐点はどの辺にあるのか？

8）山林関係者

・そのことを国有林の方と話すと，やはり 3 万円/m3 ぐらいではないか，とのこと。以前の高値だった頃に戻らないと進まないのでは，とのこと。

・丸太が高くなるのは林野庁は容認していると思えるところがある。

・これが，日本の山が整備されない一番の原因で，昭和 30 年代の後半ぐらいまでに戻らないかなという思いが林野庁や森林所有者にはあると思う。そうなればもっと山の整備や利用が進む。

・そうなると今の丸太価格の 2 倍の価格になるが，そこまで戻すと産業的にもちょっと大変かなっと思う。

9）流通関係者

・森林経営というのは，世界的に見て成長産業である。今アメリカでファンドマネーや巨大な企業が山林を買い集めている。日本でも商社が海外の森林を買った。

・通常，鉱物などの資源は取れば無くなる。ところが森林は違う。安ければ伐らない。伐らなければ木は太っていく。材積は増えていく，っということでアメリカのファンドマネーは森林は魅力的であると言っている。

・木を伐らなければ資源は増える。現実に今までのような木材価格の高騰の後の暴落は考えられない。世界的に二酸化炭素の問題は深刻。自国の木材を使う動きははっきりしている。

・日本の森林経営者でも次世代が少しでも後を継いで欲しいと思う。

10）建築関係者

・木材安定供給の意見交換会ということで，皆様の貴重な意見を伺えた。

・我々設計に携わるものとして，ウッドショックは我々も大変ショックであったが，ある程度のところで落ち着きを見ていると思いつつ，輸入コンテナの流通が止まっているということを含め，建材関係が大手メーカーの建具がいつ入るか分からないというところがでてきている。

・半導体供給不足で什器備品も陶器の部分は入るが，IC が入ったモノはいつ入るかわからない。場合によっては仮のモノを設置して，後で取り替えるということが起きている。

・住宅のことを話していけば，供給が止まり出すと，木材の供給も止まってしまう。その辺を大変危惧している。木材は住宅を作るのに欠かせないものではあるが，今，建築全体の中で供給がおかしくなっていることを心配しているところである。

11）建築関係者

・我々も建築の方の状況を報告する。

・ウッドショックに限らず，あらゆる資材が逼迫し，大変な状態である。私の物件も冷暖房の入れ替えが半年後になった。
・木材の利用については，供給力がちゃんとあるのか，安定して供給されるのか，そういう状況をちゃんと作っていただけないと，皆さん安心して使えないし，林業を回していけない。
・今，国交省と農水省がタッグを組んで公共施設の木造化を進めているが，県産材の利用については，県がイニシアチブを取って，庁舎や学校に多くの木材を使って欲しい。国からもそう言われていると思う。
・安定して木材が供給され，使った我々は県産材，悪くないですよっといろんなところに広めていく，一般にも広めていく。
・そういう形でやっていかないと，20 年位前にも木造，木質化を進められ，内装にアカマツの床材などを使って県産材の普及に努めたが，それが尻切れトンボになってしまったという記憶があるので，そうならないように，これは徹底してやろうという気持ちでやっていただければ，せっかく日本国中でそういったものが大切だと気が付いている訳だから，その火を消さないように，国や自治体，企業などが協力して，引っ張って言って欲しい。

12）山林関係者

・森林資源，丸太の供給力の問題で，資源は充実している。植栽から 50 年が経過した，胸高直径が 30cm 以上の木が山の中にはいっぱいある。ただ，先ほどから話が合ったとおり，今までの材価が安くて山の所有者が伐る意欲がなくなっていた。安く売って山から出しても，その跡地に植林ができないので，伐り控えをしていた。
・ウッドショックの報道が広まって，木の値段が上がってきているとのことで，今，森林所有者の関心が高まってきている。各森林組合に組合員から家の山を伐ってみようかっという話が出てきている。
・先ほどどれくらいの価格という話も合ったが，今までの価格より上がったことによって，森林所有者が改めて山に目を向けるようになった。
・ただそれを実際に伐って搬出して，また植えるといった流れに持って行くためには，山の中に入る林道の整備や働く人の人数，山で使う機械の整備など従来からの問題があるので，その辺は県の方で，いろんな課題をバランスよく見ていただいて，ご支援いただきたい。
・安定供給体制を作っていきたいので，よろしくお願いする。

13）行政（山林関係者）

・国有林では森林の適正な管理と木材の生産を行っているが，木材の生産については効率的な作業を求められるので，民有利と連携して効率的な作業システムの開発・実践や大苗を利用した新しい植栽方法などを進めて行くので，引き続き連携・協力をお願いする。

〇座長

・意見交換ついては，以上とする。
・県からの意見であるが，皆様もご存じのとおり，「公共建築物等木材利用促進法」が今年 6 月の通常国会で改正され，今年 10 月 1 日より施行されている。

・この改正法では新たに民間の建築物も木材利用の対象となった。今後は官民が協力して「脱炭素社会の実現に資する」取組をさらに強化していかなければならない。
・本日，この意見交換会は，ウッドショックをきっかけに，皆様にご参加いただいているが，県産木材の生産から加工、流通、施工に関する方々が一同に会するこのような機会は，そう多くはないと思っている。
・ついては，今後もこの会議を適時開催し，皆様と県産木材の利用拡大などについて，意見交換などを進めて行きたいと考えているが，皆様のご意見やお考えはどうか？

（是非やって欲しい：会場から発言有り）

・賛同の意見に感謝申し上げる。こういった分野で今後も連携していきながら，引き続き県産木材が建築関係に使っていただける流れをしっかり作っていきたいと思っている。
・今後の御案内は改めて行うが，今後も引き続き御協力の程，お願いする。

４．情報提供

(1)県産材利用拡大の取組について(スギ2×4等)

講師：宮城県林業技術総合センター　地域支援部　上席主任研究員　大西　裕二

（資料４のとおり説明）

(2)県内の新築住宅の状況とフラット 35 地域連携型(地域木材使用)等について

講師：住宅金融支援機構 東北支店 地域連携グループ　主任調査役　門間 正　様

（資料５のとおりご説明いただきました）

以上

＜実施状況＞

会場の様子

住宅金融支援機構　門間様からの情報提供